

会 議 録

1 会議名

第4回上越市総合計画審議会

2 議題

(1) 基本構想(案)について

3 開催日時

平成26年6月26日(木)午前10時から午前11時45分

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

・委員：濱祐子、荒川俊治、佐藤芳徳、得丸定子、平澤則子、蘆屋秀幸、菅文男、
鈴木興次、渡邊好昭、秋山三枝子、荒井隆、浦野憲一、大嶋慶子、田中弘
邦、服部伸、岩崎康文、上野弘、上原みゆき、御所窪賢一、松縄武彦、松
本美鈴

・事務局：川上企画政策部長、南企画政策課長、大島副課長、青山係長、石黒係長

8 発言の内容(要旨)

(1) 開会

(2) 挨拶

【佐藤会長】

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。今回の議題は、引き続き基本構想(案)であるが、些細なことでも構わないので、質問等を寄せてほしいと思う。なお、意見を述べる際は、多くの委員が発言できるようにできる限りまとめて述べるようにしてほしい。

(3) 議事

議題(1)基本構想(案)について

【事務局（石黒係長）】

資料1、2、3により説明。

【佐藤会長】

全体構成（案）について議論する前に、まず資料2で説明のあった土地利用構想（案）別紙で説明のあった都市構造の構成要素について意見等を寄せてほしい。

【得丸委員】

「都市構造の構成要素」の「点」について、都市、地域、生活、ゲートウェイの4つの拠点が挙げられているが、歴史・教育・文化という拠点を加えるとよいと思う。上越は非常に歴史文化の深い地域であるが、都市構造の構成要素の中には歴史や文化という言葉がない。「点」又は「面」に加えてほしい。

【事務局（石黒係長）】

土地利用構想は、まち全体の都市構造についての考え方をまとめるものであるため、歴史や文化などの個別に守っていきたい資源やエリアの要素を入れると、細分化されすぎてしまうことから難しい。歴史・文化といったまちの資源を生かすことは大切であるので、計画の他の箇所で工夫を加えたい。

【佐藤会長】

歴史・文化をいかす視点について計画の中で盛り込むよう検討してほしい。

【松縄委員】

「点」の「機能」に記載されている「高次」、「最低限」とはどういう意味か。日常生活に最低限必要とは、憲法にある生存権と関係しているのか。また、「線」にある「少量輸送」について、このように限定してよいのか。

【事務局（石黒係長）】

土地利用構想については都市計画マスタープランと整合を図りながら原案の作成を進めている。用語については整理し、次回の審議会で示したいと思う。「少量輸送」とは、周辺の集落と拠点の間の移動をイメージした一つの方法論であり、生活の足を守るという観点と効率性の双方の視点が必要と考えている。適切な表現の仕方を検討したい。

【佐藤会長】

用語については継続的に検討し次回以降示してほしい。都市計画マスタープランで使用している用語との整合性を図ってほしい。

【鈴木委員】

都市計画マスタープランで使用している用語は専門的であるので、整合を図りながらも、総合計画では市民に分かりやすい言葉を使用してほしい。用語が理解しやすいかどうかは、第2回まちづくり市民意見交換会の際に伺ってみるとよいと思う。

また、別紙のイメージ図について、現在示されているものは都市拠点と地域拠点を結んだ広域的な図であるが、市民にとっては生活拠点内のネットワークが生活に接する重要なものであるので、そちらを分かりやすく示してほしい。

【平澤委員】

「点」の「地域拠点」に医療や介護など色々なものが集まるイメージを抱く。

また、5次総の「生活拠点」には、近い将来地域コミュニティの維持が困難と予想されるときには、拠点内での定住人口確保を目指して居住を移動させるといった記載があるが、これは「線」にある少量移動サービスと矛盾するのではないか。地域拠点と生活拠点の考え方について具体的に教えてほしい。

【事務局（石黒係長）】

基本的な考え方は5次総の考え方を踏襲している。人口減少、歳入歳出の不均衡など現状と課題を念頭に置き、効率性を意識するという視点の下では、全ての地域でニーズを満たすことは現実的に難しい。拠点とネットワークの詳しい方向付けについては、次回以降審議をお願いしたいと思う。

【服部委員】

「都市構造」「都市拠点」にある「都市」という用語は、意味合いを統一した方がよいと思う。例えば「都市拠点」を「市街地拠点」という言葉に変えるなど。「高次」「地域拠点」という言葉も分かりにくい。「面」と「点」で用語の整合性を図り、分かりやすくしてほしい。

【佐藤会長】

分かりやすい言葉に置き換えられるものは置き換えてほしい。「高次」という言葉は地理学、都市工学等で使用される際に定義付けされていると思うので、それらを踏まえて使用してほしい。

【上野委員】

「線」のイメージ図について、道路の路線と公共交通の路線が混同しているので分かりやすく示してほしい。また、地域拠点、都市拠点についてもイメージが湧きやすいようにしてほしい。

【荒井委員】

資料2の「2 土地利用の現状と課題」の(2)の に高齢化率の推移が示されているが、少子化率の推移も示してほしい。また、 の高齢者世帯の除雪対策についての記載に関連して、高齢者福祉については、民生委員の果たす役割の大きさを承知した上で対策を進めてほしい。高齢者人口の多い地域など、民生委員の負担が非常に大きいところもあるので、割当ての算定基準をもう少し緩和するなどしてほしい。

【事務局（石黒係長）】

少子化率の推移は、平成22年度は13.6%、平成37年は約11%である。民生委員の件については、具体的な施策の参考にしたいと思う。

【浦野委員】

土地利用とは、旧上越市の土地開発公社の土地や民間の土地も含めた土地利用構想であるのか。また、上越市は市内を南北に走る道路は発達しているが、東西に渡る道路は限られており、道路を整備し便利にすることが重要であると考えているが、土地利用構想の中に組み込まれているのか。

土地利用には直接関係はないが、総合計画では上越まつりや謙信、佐渡など、観光についてもっと記載してほしい。

【事務局（石黒係長）】

土地利用構想は民間と行政の土地どちらも対象としている。総合計画では、具体的な土地の規制などの方法論を記載するのではなく、まち全体としての大きな考え方を示すものである。そのため、具体的な道路整備については総合計画では記載せず、各計画で示したいと思う。観光については、「交流」という言葉の中に含めている。

【事務局（青山係長）】

道路整備については、山麓線のようなまちの骨格となる幹線道路や上沼道など地域と地域を結ぶ重要で高規格な道路については総合計画で整備の方向性を示すことになると考えている。

【佐藤会長】

土地利用構想については、移動する人の利便性を踏まえたプランにしてほしい。また、観光という言葉が総合計画の中で表に出てきていない点については、今後も検討してほしい。

【浦野会長】

土地利用構想は旧土地開発公社の土地の活用・管理なども含め、市全体を見渡した上で考えるべきであると思う。

【佐藤会長】

資料の土地利用構想（案）については、基本的な方向性はこのようなものとし、引き続き細部をつめていくこととしてよろしいか。

【全委員】

了解。

【佐藤会長】

次に、全体構成（案）及び重点戦略に移りたいが、事務局より事前に報告があるとのことであるので、お願いしたい。

【事務局（大島副課長）】

資料4 上越市議会 平成26年第3回（6月）定例会 総務常任委員会【所管事務調査】（概要）により報告。

【佐藤会長】

以上の事務局の報告も踏まえた上で、意見をいただきたいと思う。

【服部委員】

重点戦略1はイメージがぼやけているため、戦略2、3と整合のとれた記載をした方がよいと思う。

【事務局（石黒係長）】

戦略1の趣旨は、市民の暮らしを守りたいということであり、記載の仕方によってはまちづくりの全てに当てはまる言葉になってしまうという懸念もある。まだ検討段階であるので、審議会の中で委員の皆さんに審議していただき、内容を充実させていきたいと思う。

【蘆屋委員】

将来都市像の「すこやかなまち」と市政運営のテーマである「選ばれるまち 住み続けたいまち」の関連性を教えてほしい。市政運営のテーマを当面の目標として考えてよいのか。

【事務局（石黒係長）】

将来都市像とは、目指すべき目標像であり、その目標を実現するためにどのような市政を行っていくのか端的に表したものが市政運営のテーマである。

【秋山委員】

「すこやかなまち」のイメージの中心に、市民が主役のまちづくりを位置付けたことに共感する。市民が担うのは主にソフト面であると思うが、戦略的に市民が主役のまちづくりを行うには、地域自治を柱に据えることが必要であると思う。地域自治区制度など今ある仕組みの活用など、位置付けについて配慮してほしい。

【事務局（石黒係長）】

全体構成（案）の第3章3-2に「市民が主役のまちづくりの基本方針」の中に、一人ひとりを大切にする人権の尊重などと合わせて記載したいと思う。

【上原委員】

すこやかなまちのイメージ図の都市基盤分野の記載からは、市街地だけを整備するように感じられ、田園地域や中山間地域のことが述べられていないように思う。例えば、「利用しやすい公共交通網があり」と入れるなど配慮してほしい。

【事務局（石黒係長）】

道路や公共交通などの移動手段を含めて都市基盤に記載した。全てを列挙することができないため、基盤という言葉で総称することとしている。総合計画はまち全体の計画であるので、決して市街地の基盤整備だけを考えているわけではない。

なお、農林水産分野では農村・漁村、環境分野では豊かな自然など、田園地域や中山間地域を念頭においた記載をしている箇所もある。

【田中委員】

重点戦略2の産業・雇用の充実のための戦略は、賛成である。

【鈴木委員】

重点戦略には、策定後の8年間で突出して取り組むべきものを定めるべきである。これだけはやっていくということを市民に分かりやすく記載してほしい。

【菅委員】

雇用の充実という言葉の意味がよく分からない。雇用の充実ではなく、抽象的になるが、生きがいを持って暮らせるとか、女性の雇用などに視点を当てた方がよいと思う。

【岩崎委員】

市民目線で見ると、重点戦略には諸問題を解決するために内容を詰め込みすぎているように感じる。方向性がぼやけているようにも思えるので、市民がすこやかなまちに住み続けるという点を軸にもう少しシンプルに考えてほしい。

【濱副会長】

重点戦略は3つにするのではなく、健康、教育など具体的な柱を立てて示した方が市民には分かりやすいと思うので検討してほしい。

【佐藤会長】

重点戦略を設定した経緯など事務局の方から説明があればお願いしたい。

【事務局（石黒係長）】

重点戦略は、目標を明らかにして、分野横断的に取り組むことで相乗効果が生まれるようなものとしたいと考えている。

【上野委員】

戦略3に関連して、回遊性の向上は観光や医療などあらゆる分野で重要である。観光目的等で訪れた市外の方だけでなく、市内に住む人にとっても快適な生活を送れるようになるということが大切である。

【松本委員】

中山間地域では空家対策が深刻化している。個人の所有ということもあり行政の介入は難しく、また取り壊しにも非常にお金がかかる。外に出て行った人もまた帰ってくるために空家のまま残している人もいると聞く。中山間地域に住む高齢者はできればそこに住み続けたいが、除雪体制がなければ住み続けられない。今住んでいる人達によって山林が守られているということに関心を向け、中山間地域も市街地も平等に安全安心に暮らせるまちづくりをお願いしたい。

【平澤委員】

重点戦略は、5次総の重点戦略のように見ただけですぐにイメージが湧く具体的なものにしたい方がよい。評価方法まで想定できるようなものが理想的である。

【事務局（石黒係長）】

評価という視点は大切な視点であると思う。審議の中で検討していきたいと思う。

【佐藤会長】

定刻となったので、意見がなければこれで議事を終了したい。

全体構成（案）と重点戦略については、今後もこのような方向性で進行してほしいか。もし何か意見があれば遠慮なく事務局に寄せてほしいと思う。

【全委員】

了解。

(4) その他

【事務局（大島副課長）】

次回審議会日程等事務連絡。

(5) 閉会

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画政策係

TEL：025-526-5111（内線 1452）

E-mail：kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。